


福井県大野市

大野ですくすく
子育て応援ポータル

大野市教育委員会こども支援課
2026年発行

# このまちで家族になる




仕事もしたい。
好きなことも続けたい。
ふたりで暮らすって、どんな感じ？
便利なほうが、暮らしやすい？
子育てできる自信なんて、まだない。

そんなあなたへ。
この先の大野での暮らしを
少しだけ想像してみませんか？

# 大野で暮らすって、
# いいかもしれない。

大野ってどんなまちだろう。
便利な場所は、ほかにもある。
仕事も、お店も、選択肢の多いまちは、ほかにもある。

でも、大野には大野の豊かさがある。
困ったときに、顔が浮かぶ人がいる。
山や川が、特別なお出かけではなく日常の中にある。
ないものを嘆くより、楽しみを自分たちでつくる人がいる。
「やってみたい」を応援してくれる空気がある。

自分らしく心地よく暮らすために必要なものは
実はもう揃っている。

一人で暮らすのもいい。
誰かと暮らすのもいい。
いつか家族が増えるのもいい。

大野で、自分らしい暮らしをつくっていく。
そんな選択肢もいいのかもしれない。






## 「大野の規模感だから始められる。」
## 子育ても、仕事も。
## 自分らしい暮らしを大野で

加藤沙央里さん

大野市出身／2児の母　御清水近くの自宅を地域に開いて、英語教室とカフェを営む



## 「東京にいたら、子ども3人も産んでないかもしれない」
## 子育ても、仕事も。
## 自分らしいバランスを大野で

永井千明さん

東京都出身／3児の母　2018年に大野へ移住。七間通りにジェラート店を営む

自宅での英語教室、カフェ、イベント、宿泊施設のベッドメイク。加藤さんは、日々いくつものことを行き来しながら暮らしている。長男が生まれたばかりの頃は、「ちゃんと見なきゃ」「ちゃんとしなきゃ」と、子育て一本で向き合うことが時にストレスに感じてしまったこともあったという。

そんな中で気づいたのが、自分のやりたいことも続けながら子育てをするほうが、自分には合っているということ。英語教室では生徒と向き合い、カフェではワッフルを焼く、空いた時間に本を読んだりする。気持ちを切り替えられることが、良いバランスになっている。

「英語とカフェとスケボーと、全然異業種ばっかり。でも、スイッチが自分の中で切り替えやすい。だからこそ、ずっと続けられる」

いろいろなことに関わることで、いろいろな人と出会う。「好きなことをやっていいんだ」と自分自身が楽しんでいる姿を子どもたちに見せられることも、加藤さんにとって大切なことだ。

20代の頃からカフェで働き、「いつか自分のお店を持ちたい」と思っていた加藤さん。知人の紹介で出会った御清水近くの古民家を見て、「この建物を生かしたい」と思い住み始めた。コロナ禍で仕事が少なくなったことをきっかけに、「自分のやりたいことをやりたい」と、念願のカフェを始めた。

振り返ってみると、いろいろなことに挑戦できたのは、大野の規模感がちょうどよかったからだという。「そこそこ人がいて、やってみてもいいかも」って思える場所。都会だと競合が多く、家賃も高い。始めるハードルはもっと高かったかもしれない。

そしてもう一つ、大野で感じたのが、人との距離の近さだった。新しいことを始めても、拒まれるような感覚がなかったという。何かを始める余地がある。

子育ても、自分の好きなことも、一つに決めなくていい。いろいろなことを試しながら、自分に合う暮らしをつくっていく。加藤さんの暮らしには、そんな大野との付き合い方が表れている。

東京都出身の永井さんは、大野で3人の娘さんを育てている。東京と大野。子育て環境を比べてみると、違いは、暮らしのあちこちにある。

たとえば、こども園への送り迎え。大野では、車に子どもたちを乗せて移動することができる。一方、東京では自転車の前後に子どもを乗せて走る親の姿をよく見かけたという。

「どこかへお出かけするにしても、やっぱり電車でとなると、周りの人に気をつかいながらの移動になる」

人が多く、移動するだけでも大変な東京で、仕事をしながら3人の子どもを育てる。「東京だったら、絶対できてないと思う」と話す。

もちろん、大野に来ればすべてが簡単になるわけではない。移住した当初は知り合いもおらず、保育園をどう探せばいいのかも分からなかった。市役所に相談し保育園のリストをもらい、見学し、合う場所を選んだ。

そして今、永井さんは七間通りで自分のお店を営んでいる。

会社員時代は、朝何時までに子どもを連れていかなければならない、と時間に追われる毎日だった。子どもは思うように時間通りには動いてくれない。間に合わせようとするほど、気持ちがピリピリしてしまう。

自営業になった今も、仕事と子育ての両立については「ずっと試行錯誤している」という。それでも、時間を自分で調整できるようになったことで、以前より気持ちに余裕が生まれた。

永井さんにとって、仕事をすることはお金を稼ぐためだけではない。

「ずっと子育てだけっていうのはしんどいなと思って。社会と繋がりたくて。だから、仕事を始めました。」

「子育てはあんまり向いてないかなって思います」と笑いながらも、「子どもに日々成長させられている」と話す永井さん。

大野で暮らしているからこそ、3人の娘たちとの毎日がある。便利さだけでは測れない暮らしやすさが、ここにはあるのかもしれない。

# 結婚って？家族になるって？？



廣瀬さん
結婚２年目／福井市出身



船津さん
結婚２年目／2026年に東京都から移住
現在育休中



江藤さん
結婚２年目／2024年に兵庫県から移住



伊藤さん
結婚９年目／福井市出身



五十嵐さん
結婚８年目／大野市出身

市内に暮らす５人の方々に集まっていただき、
「大野で家族になること」をテーマに座談会を行いました。
それぞれの経験をもとに、家族ができて変わったことや、
家族と暮らす日々について語り合いました。

## 家族になってどうですか？

**廣瀬さん**

困ったことや、自分の苦手なことも、自分ひとりでなんとかしなきゃいけないと思わなくなりました。
体調が悪いときは看病してもらったり、苦手な虫を退治してもらったり（笑）。そんなときに、家族がいてよかったなと思います。

**江藤さん**

結婚して何かが大きく変わったかというと、本当に何もなくて。
でも、相手のご両親やお姉さんがすごくいい人たちなので、その人たちと家族になれたことは、すごくうれしいなと思います。

**五十嵐さん**

僕は、結婚して子どもができてから、自分の考え方がすごく変わりました。
それまでは自分が一番だったんですけど、妻や子どもを最優先に考えるようになって。そうすると、**自分の視野もすごく広がったんですよね。**

## 家族ってなに？？

**船津さん**

それまでは、自分の人生だから、明日のことはどうにでもなる、という感じだったんです。
でも、子どもがいると、「自分に何かあったらダメだな」と思うようになって。
この前、災害支援で熊本に行ったんです。妻は「いい経験だから行ってきなさい」と言ってくれたんですけど、あとから聞いたら、結構心配していたみたいで。
「ああ、僕だけの人生じゃないんだな」って、そこで改めて思いました。
だから、

**家族って「チーム戦」だなと思います。**

みんなで協力して、80点くらいを目指すような感じです。

## 都会では、仕事＞＞＞結婚？

**船津さん**

東京にいたときは、自分のやりたいことに集中できなくなるから、結婚しないという人も周りに多かったです。

**江藤さん**

私の地元の尼崎でも、「今はひとりでもいい」と言う人や、「仕事に没頭したい」と言う人が多かったです。ただ、「死ぬときにひとりは嫌だから、いつかパートナーが欲しい」とも思っている。
自分も尼崎にいたら、同じように考えていたんじゃないかなと思います。

## やりたいことができなくなる？

**伊藤さん**

私も、子どもができて、自分のやりたかったことができなかったり、諦めたりしたこともあります。
でも、

**それはそれで、ひとりでは得られなかった幸せもあるんですよね。**

子どもって、欲しいと思ったときに必ずできるものでもないから、私は今、家族がいてよかったなと思います。もちろん、ずっと楽しいわけじゃないですけど（笑）。
365日あるうち、8割くらいは「面白いな」って思えているから、まあいいかなって。

**みんな**

## 8割面白いっていいね（笑）。

# 大野で暮らすって ちょっといい 集めました！





## 大野の日常
**自然遊びは非日常ではない**

### 車で30分で牛に会える
近所のワンちゃんを見に行くような気軽さで毎週六呂師のミルク工房に牛を見に通っていました。30分で行けるところに牛がいるなんてそうないです。

### 生き物はすぐ身近に
虫って出ると嫌だけど、教育上すごくいいなと思っています。子どもたちは虫を捕まえたらすぐ保育園に持って行きます。郊外はもちろん、まちなかでもお金を払わず生き物に触れる体験ができることが良いなと思います。

### 雪があればどこでも遊び場
飛びこむ、雪玉を投げる、オブジェを作る。雪さえあれば子どもたちはずっと遊んでいます。大人でも童心にかえって、雪に飛び込んじゃう日もあります(笑)

### 夏は海より川
上半身裸の男の子たちが浮き輪を持って勝原園地に向かう坂道をチャリを漕いで行くのを見ました。大野ならではの風景だなと思い感動しました。

## 大野の人情
**誰かが、ちょっと気にかけてくれる**



### ともに悩んでくれる先生
就労時間の関係で希望するこども園への入園が難しかった時、こども園の先生が一緒に頭を悩ませてくれました。

### 職場にもおすそ分け文化
看護師をやっていますが、患者さんから「今日豚汁作ったから取りにおいで」って言われて、鍋ごとおすそ分けもらったりしました。ご近所だけなく職場の人から野菜をもらうこともしょっちゅうあります。

### 近所のおんちゃん
大野市内の全然知らない土地に引っ越しました。近所の人が親身になって気にかけてくれて、除雪車が入れない細い道を近所のおんちゃんがブルドーザーで除雪してくれたこともありました。

## 安心な暮らし
**安心のサービスがある**

### 妊婦さんの救急車利用
妻が妊娠している時に登録をしました。仕事で勝山に通っていて、すぐに戻れない状況でも、何かあった時に救急車に乗れる。救急車を使うハードルが一段下がるので安心できました。

### 待機児童0
都会だと、上の子と下の子で違う保育園に入らないといけなくなってしまったという話を聞きます。

### 子育て応援チケット
お母さん向けのサービスを受けられるチケットで、私も産後に整体を受けました。

## 挑戦できるまち
**「やってみたい」が始めやすい**



### 楽しみは自分たちで作る
大野には自分たちで楽しみを作っている人が多いと思います。だからそれなりに田舎でも、みんなが楽しくいれる。イベントも多いので、週末何して過ごそうかとあんまり悩んだことがありません。




### 面白い場所が増えている
ここ10年くらいで、外から来た人に勧めたい場所がさらに増えました。飲食店や雑貨店だけでなく、若者がやっている活気ある場所が増えてきました。それらが点でなく線で繋がってきたような感覚があります。

### 始めたい人に寛容
大野で若者が何かイベントをするって言ったら、地域全体が応援してくれるし、みんなで楽しもうぜ！っていう雰囲気がある気がします。都会でやるとそういう雰囲気がない。そもそも会場借りるのにも大きなお金が必要だったりするので、会社ではなく個人や有志だと難しい場合が多いです。何かしたい！と思った時に、市役所の方も親身になって相談にのってくれました。






## 外から来た人はどう見てる？
## 地域おこし協力隊の村上さんに
## 聞いてみた！

**大野で子育てするなら、どんな環境があるんだろう？**
**神奈川から移住し、**
**大野と関東で多くの子どもたちと関わってきた村上さん。**
**市内の保育園や認定こども園の大半を訪問し、**
**こどもを対象としたイベントなどを実施する中で見えてきた、**
**大野の子育て環境の「ここがすごい！」**

**村上綾さん**

- 神奈川県出身 / 2024年大野市へ移住
- 大野市地域おこし協力隊（子育て支援・若者支援）
- 第3の場「ここのわ」代表
- 約5,000人の子どもたちと関わってきた
- 1児の母






ここがすごい！！

## 「子どもたちのために」と日々向き合う先生たち



保育園や認定こども園を訪問する中で、保育環境の素晴らしさに感銘を受けました。各園にはそれぞれの方針があります。特に印象に残ったのは、それを現場の先生方が日々の保育の中でしっかりと形にされていること。「子どもたちのために」と、常に学び、考え、工夫を重ねている先生方の姿が印象的でした。また、四季折々の自然を感じられる環境が、子どもたちの暮らしのすぐそばにあることも大野の魅力です。
大野では当たり前のように感じられることかもしれません。でも、外から来た私にとっては、とても貴重な環境だと感じています。

各園の特色は
YouTubeでみれます！

ここがすごい！！

## 子どもたちの成長を支える地域の人たち



大野市と一括りにいっても、地区によってさまざまな特色があります。
市内の小学校では、城下町の歴史を感じながらまちを歩く「まち探検」や、農家の方が先生となって行う授業など、地域ごとの特色を生かした学びが行われています。
学校だけでなく、地域全体で子どもたちの成長を支え、見守っている。そんな大野の姿に触れ、「地域で育てる」という言葉の意味を改めて実感しています。

### ここもすごい！

**18年をつなぐ教育**

保育士から高校教員までが学び合い、子どもたちの成長を切れ目なく支えています。

**「働く人にやさしい企業」認定**

**40社以上！**

例
- 子どもが小学校3年生までは時短勤務が可能な企業
- 「チケットレストラン」での食事補助を実施している企業

**おいしい給食の提供**

すべての小中学校で温かくおいしい給食が食べられる自校調理方式を採用しています。また、小学校の給食費は無償です。

**手厚い放課後の居場所**

**福井県内トップクラス**

市内すべての小学校区に放課後の居場所を確保。放課後児童クラブまたは放課後子ども教室を利用でき、平日の利用料は無料です。